

ありまふじ里山だより

Vol.10

『ありまふじ里山だより』では、棚田里山エリアの自然の様子や里山保全に向けた取り組みについてご紹介します。Vol. 10は棚田の畔に咲く草花と里山で見つけた落とし物についてお届けします。

田んぼの畦に咲く花

棚田の畔では、ほかの草に隠れるようにアキノタムラソウやキツネノマゴ、スズサイコなどが可憐な花を咲かせています。注意深く歩かないと、見逃してしまいそうなほど小さく、淡い色の花。

田んぼを囲うフェンスにはガガイモのつるが伸び、こちらにも淡紫色の花を咲かせています。

気づけばヒガンバナも数株生えてきて、田んぼの風景に文字通り花を添えています。

淡くやさしい色合いの草花が咲く棚田の風景には情緒を感じます。

里山の落とし物

かやぶき民家近くの園路に、頭だけになったカブトムシの亡骸が落ちていました。カラスなどの鳥、それともタヌキなどの小動物に食べられたのでしょうか。果たして犯人は？

もうひとつ落ちていたのは秋の味覚、栗。まだ青いものや茶色く色づいたものなど。ヒガンバナと相まって、秋の訪れを感じさせてくれます。